

パルスオキシメーターのセントラルモニター化の有用性

三井 友成、深井 秀幸 姫路赤十字病院 臨床工学技士
梶間 憲二、尾藤 崇 タイコヘルスケアジャパン

【目的】近年、パルスオキシメーターは呼吸・循環管理の生体モニターとして必須となっている。また、人工呼吸器の回路外れのため重篤な事故につながった報道も多数されている。これらの事故は病室と詰所の距離が離れているためアラームの発生に気づくのが遅れたことが原因として考えられる。今回、我々は人工呼吸療法中にパルスオキシメーターを必ず装着している点に注目し、パルスオキシメーターをセントラルモニター化してその有用性を経験したので報告する。

【方法】対象病棟は、小児科病棟50床。パルスオキシメーターはタイコヘルスケアジャパン製のN-550、セントラルモニターはSAT-MeSSEGEを使用。25台の装置を10人まで同時にセントラルモニターで監視することが可能なシステムを採用した。このシステムでは、既存のパルスオキシメーターに無線LANカードを装着するだけで使用可能となるのでアンテナ工事や装置の買い替え等が不要で、最低限の費用で構築できた。

【結果・考察】パルスオキシメーター用のステンレス製の架台を作成し、ベットサイド壁に取り付けたため、視認性がよく、移動の煩雑さや保管スペースを減らすことができた。アラームを詰所ですぐに確認できるため患者急変時には有用で、離れた病室や夜間帯では特に安心して使用することができた。人工呼吸器装着患者においては、人工呼吸器のアラーム音が聞こえにくくても、パルスオキシメーターのセントラルモニターのアラームが鳴ったため迅速に対応することができた。現在は、アラームをPHSに伝送することも可能である。これらのことより、パルスオキシメーターのセントラルモニターは医療事故を未然に防ぐために有用であると思われた。